

表題：第14回瑞穂町の協働を考える会議 概要

- 1 日 時 平成26年6月17日（火曜日） 18時30分から20時05分
- 2 場 所 町民会館第2会議室
- 3 出席者 （構成員） ※以下出席者について敬称略
榎本和己、加戸佐織、香取幸子、川口尊、古宮郁夫、清水久央、
中沢清、野本多恵子
（事務局）
栗原裕之（住民部長）、水村探太郎（住民部地域課地域係長）、
吉岡佐知代（住民部地域課地域係主任）、
福島聡（住民部地域課地域係主任）
- 4 欠席者 近藤隆幸
（瑞穂町協働施策推進アドバイザー）
辻山幸宣
（事務局）
古川実（住民部地域課長）
- 5 議 題 1 協働宣言の実現について（宣言の周知・啓発）
2 議会への報告について
3 その他
- 6 配付資料 1 次第（当日配付）
2 第13回瑞穂町の協働を考える会議まとめ（事前配付）
3 宣言の周知・啓発イメージ（※差し替え）（事前配付）
4 宣言の周知・啓発について（参考）（事前配付）
5 多摩地域データブック（2013年版）抜粋（事前配付）
- 7 あいさつ
栗原部長
- 8 開会
古宮座長

議題1 協働宣言の実現について（宣言の周知・啓発）

- 事務局から
- ・ 内容を説明

【意見】

- ・ フォーラムやイベントを開催して、興味がある方にできるだけ参加してもらい、

その方たちにいろいろ広めていけるような仕組や、せっかく宣言したのに良く分からないというのは困るので、町中にポスターを貼るといったことが考えられます。

- 産業まつりやサマーフェスティバルのような町のイベントでは、プログラムのひとつになるぐらい目立ったことをやらないとお祭りの中に溶け込んでしまうと思います。
- 例えば、場所を借りて説明会をする場合、「協働とはこういうものです。」と話をして、授業のようになってしまうので、事例などと合わせて紹介していくことが必要であると思いました。
- 既に協働という形があるものをピックアップして浸透させていくには、回数をやらないとどうにもならないと思います。
- この間、サイクリングをやったときもゴミだらけのところがありましたが、そこを清掃したり草を刈るのでも良いし、回廊計画のところをウォーキングしたり、何かを見てもらいながらイベントをやるのも良いと思いました。
- ホームページを使ったり、メディアを使ったりといろいろあると思いますが、宣言をする前に、「これが協働です。」というものをひとつやってみるのも良いと思いました。社協とかボランティアセンターとうまく連携すれば、たくさんネタがあるような気がします。
- 一定期間中、設置しておくことでできることがあると思いますし、講演会をやるにしても一方的にやるのではなく、地域の代表の方などがいる中で、アドバイザーや座長や部長が協働について話をして、質疑応答をしたりする方が良いと思います。また、その前に、協働について関心を持ってもらうようなことをした方が良いと思います。
- 具体例を吸い上げてみると良いと思いました。
- 午前中は遊びの要素も入れたイベントを行い、お昼を挟んでシンポジウムのような形で、「協働とは何か。」ということをやっても良いと思いました。そういったことで実績をつくるのも大事だと思います。
- 協働をしなくてもちょっと瑞穂町で遊んで、顔を出せる仕組をつくると入りやすいと思います。シンポジウムの会場に瑞穂町のB級グルメなどを置いても良いのではないかと思います。
- 本番に向けて、イベントを1、2回入れておくと展開はしやすいと思います。
- 提言だけだと言葉だけで終わってしまうような気がします。
- 既に協働の活動をやっている人たちの集まりでも良いと思います。ホームページやメディアを使って広めていくより見えてくるものがあると思います。
- 商業施設や病院や保育園もお父さんお母さんが来るような場所なので、年齢の

ことを考えて目に付くところを探すのも必要かと思いました。

- 宣言を発表する前に、盛り上げるためのイベントをした方が良いのか、いきなり発表して良いのかですね。発表のタイミングを際立たせるために、何か手を打つ段取りを考えられればその方が良いと思います。
- どんなことをしなければならぬかをある程度まとめて初めて来年度の予算が組めるということですね。今ならある程度検討ができますので、予算がつけられるような準備をするということですね。
- 提言書は今まで会議で出てきたような意見をまとめていけば良いと思います。
- 瑞穂町の投票率が低いという話が以前の会議でもありましたが、皆が問題意識を持っていないのも、今の町の状態や先々の危険性など、町の現状や未来の形を町に関係する人にアピールしていくことで、逆に協働の必要性を感じることにつながるのかなと思います。
- 町の税収がどのような状況でどのような使われ方をしているのかや、高齢者の医療の関係も市とか町に移管されてくるような状況がある中で、状況の変化を行政が伝えていくことで、自分たちの生活の中での関心を持ってもらうことが必要であると思います。
- 瑞穂町の現状を含めて、近隣と比べたときの瑞穂町の魅力を発信してもらえると協働の魅力も出てくるのではないかと思います。
- 様々な世界にいる人が様々なやり方で協働していることから、ひとつの協働のテーマで人を集めるのは非常に難しいと思います。しかし、過程を知っていただくような会は持っても良いのではないかと思います。そうすれば予算も掛かなくて済むのではないのでしょうか。
- 難しいテーマであるために、一般の人にやっていることをアピールする意味では起爆剤になるようなものが必要ではないかと思います。
- 協働という字は間違っている程度にしか思っていないと思います。協働という字が使われていることを知っている人は少ないと思います。ただ、協働宣言が出て、それが何だろうと受け止める人はたくさんいると思います。
- まずは分かってもらうということを前提にした、啓発を考えていった方が良いと思います。
- 小中学生でも触れられることができれば良いと思います。
- 子どもの意見に対して大人がつなげてあげられるようなシステムができれば良いと思います。子どもからいろんな意見が出て、その中からできることがつながっていけば協働ができて、良い町ができていくと思います。
- 子どもが「こんな町にしたい。」ということ、グループで発表するのを大人が見るといった形も良いと思います。

- ・ 青少年の主張や子ども議会は、子どもたちの自主性や考えたものの発表をする場となっていると思います。
- ・ 介護保険に入っていない人たちが、町の体操教室を卒業した後に、その先の受け皿がないことが問題になっています。地域の中で、町が準備してくれたものから受け皿をつくってもらえるようなまちづくりがされればと思います。
- ・ 若い人たちはいろんなイベントに出掛けることができますのですが、高齢になるとそういう機会が少なくなっていくので、地域の中で、高齢者の人たちを皆で支えていけるような町になっていってほしいと思います。
- ・ 事業所が月に1回集まって、これからの瑞穂町を考えていますが、それには町の力が必要なので、町の事業所も地域の人たちも一緒になって高齢者を支えていけるのが協働なのかなと思っています。
- ・ 一人暮らしが増えている中で、そういう人たちにも皆の手が差し伸べられて、過ごしてもらいたいと考えさせられるのですが、今日あるお宅にお邪魔したときの話しで、ボランティアセンターでやっているサロンが都営住宅の中にもできたということで、「これでもう1箇所行けるところがあったので良かった。」と喜んでいる高齢者もいます。
- ・ 地道に、皆に協働というものを分かってもらえるような仕組みができればと思います。
- ・ 高齢者の福祉に関しては、独りで家にこもらせないという大原則がある中で、誰かの手がないとなかなかそれができないということですね。
- ・ 自分の事業所でもサロンづくりを去年の5月に始めました。1年経ってみて、近所の人歩いて毎回10人ほど来られるようになりました。地域の中で、行けば誰かと話ができるような場が浸透し、町の方で全部してもらおうとか、介護保険でしてもらうのではなく、地域の気持ちのある人たちにちょっと声を掛け、ボランティアでも誰かがいてもらえれば、「それならそこに行ってみようかな。」という気持ちになってもらえると思います。社協の応援もありましたが、他の地域でもやればもっと数が増えていくのかと思います。
- ・ サロンのことも、いかに大勢の人が実情を知ってもらえるかですね。
- ・ PRにケーブルテレビを利用したらどうかと思います。
- ・ 協働という文字が書かれているものを町民は読んでいると思うのですが、頭の中には留まっていないと思います。
- ・ 宣言をしてから具体的な行動を起こしていくのも良いと思うのですが、具体例を用いて、「こうすれば協働になる。」ということが分かった上で周知していった方が良いと思いました。
- ・ パブコメについてホームページに載せているということですが、実際どれくら

いの人が見ているのか気になります。

- ・ まずは宣言に興味を持ってもらって、その人たちが食い付くような、振り向かせるようなことを考えなければいけない訳ですよね。役場には行かなくても、いろいろ見ている人はいると思います。
- ・ 提言書には既にやっていることは書かない方が良いでしょう。
- ・ 既にやっていることは実施例としてまとめ、それに伴って分かったことや問題点、Q&Aをまとめるのも良いでしょう。
- ・ 議員さんの立ち位置と申しますか、協働に関してはどれくらい思っているのか少し気になりました。地域を良くしていくという中で、議員さんの立ち位置が分かりづらいかないと思いました。

事務局より

- ・ 第4次長期総合計画が平成23年4月から始まってから半分以上が過ぎても、協働宣言という話が出てくるのも、町としてもなかなか実態が見えず、芽が出るまでにも至っていないからかと認識しています。
- ・ 宣言の素案についてパブリックコメントをかけているという状況で、まずはこの宣言を広く高く掲げることが第一かと思えます。
- ・ 啓発は、町が続いていく限り続くと思えます。一朝一夕に浸透しませんし、難しいことだとは思いますが、協働宣言を高く掲げ、実際行われている協働の活動を広げていく必要があると思えます。
- ・ この会議の所掌事項は、宣言の実現に関することや協働の推進に関することなので、フォーラムなども手法のひとつとしては十分にありうるかと思えますが、今年度の主な目標は宣言を掲げていただくとともに、宣言の実現に向けた具体的な提言をまとめていただくことです。
- ・ 公共施設等に貼り出したポスターには、パブコメのことがホームページに載せてある旨を書いています。一方、小中学校用のポスターには、「こんな町にしたい」といった意見を募集する趣旨になります。ある小学校に行きましたら、先生が興味を持っていただき、教材とまではいきませんが、「生徒に話をして書かせようかな。」という話もありました。
- ・ 周知啓発について理事者側に、「こういう手法でやったら周知できるのではないか。」や、実例を出して具体的に、「こういうことをしてはどうか。」という意見を出すための、まとめをしていただきたいと思います。具体的なことも書かれていた方が実のある提言書になると思えます。この会議で、できるかできないかというよりも、こういうことがあったら良いということを出していただきたいと思います。

- ・ 提言書を座長から町長に出していただくと、それを受けた町長から町の様々なセクションに降りていきます。そうすれば、町の各セクションがその提言書を見て、自分たちの取るべき方向性を決めてそれぞれが動き出します。今でも動いていることは、拍車をかけるような動きをします。
- ・ 提言書の次のステップとして、例えばこの会議が「協働を推進する会」となった場合には、会議としてフォーラムを開催するなど、主体的に取り組むことも可能になると思います。
- ・ 提言書の構成ですが、例えば、概要や実例があって、「こういうことをしていけばより良くなる。」という意見を構成していけば良いと思います。

結 論

- ・ 共通認識として、文章をつくって出すだけではそれで終わってしまうのではないかということや、実態として動いているところと絡ませながらアピールしなければ、先につながっていかないのではないかということがありました。
- ・ 次回会議のときまでに具体的なまとめ方（提言書としての骨格）を事務局で整理しておくこととしました。

議題2 議会への報告について

事務局から

- ・ 内容を説明

【意見、質疑応答等】

- ・ 議員からの反応はあったのでしょうか。→（事務局）条例化をするのかどうかを質問されましたが、義務を課したり、権利を制限する訳ではなく、理念であることの話をしました。
- ・ パブコメ以外でも何か意見をいただけるのかどうか興味がありました。以前の会議でもこの会議に来てもらって意見とかいただけるのかという話もありました。
- ・ 議員の中で、議員活動以外で協働事業をされている方はいるのでしょうか。→（事務局）協働に興味をお持ちの議員もいるとは聞いています。
- ・ すごく温度差があるような気がします。自分がやっていることをどんどん広げようとする人と「そんなのあるんだ。」という人とがいます。
- ・ 公の人が出てくれば協働をうまく活かせるのではないかと思います。
- ・ 立ち位置としては議員も町民ですよ。→（事務局）議員も町民のカテゴリー

に入ります。ただ、議員は町が行う予算執行であるとか条例の制定などを監視するために住民の中から選挙で選ばれています。

- ・ 協働の中に議員の監視機能は入れなくて良いのでしょうか。→（事務局）理念に関することについては入れる必要はないと考えています。これが予算の話であれば町民と行政の間に監視機能が入ってくると思います。議会の議決を経なければ執行できず、執行しても決算の認定がなければ認められないからです。議会には、9月の定例会に、パブコメを踏まえた形を報告します。
- ・ 議員は完成したものを報告することについて理解しているのでしょうか。→（事務局）各市が制定している自治基本条例のような形ですと、議員の議決を経ないと交付されませんが、協働宣言は議会への報告とします。

議題3 その他

事務局から

- ・ 議題1で質問のあった、町ホームページの協働のコーナーのアクセス数について、5月末時点のデータを報告しました。（協働のトップページ81件、協働のまちづくり25件、（仮称）瑞穂町協働宣言について17件、瑞穂町の協働を考える会議48件※4月は144件）
- ・ 6月24日に庁内協働推進担当者会を開催し、職員から協働宣言に対する意見募集を行うことを説明しました。
- ・ 次回会議の日程を調整しました。